

やまなしライフサポート

LS YAMANASHI LIFE SUPPORT

NEWS LETTER12号 2018年10月発行

NPO 法人やまなしライフサポート

〒400-0836 甲府市小瀬町 654

山梨カトリック福祉センター

TEL/FAX 055-241-2545

E-Mail yls@mx6.nns.ne.jp

ホームページ http://yls.or.jp/

新しい文化としてのボランティア活動

NPO 法人やまなしライフサポート理事長 中山八十司

2018年8月16日、山口県のある田舎町で日本中の
人々を仰天させるような大事件が起こった。行方不明になっ
て2日間以上も発見できなかった2歳児を大分県からやって
きた、尾畠春夫さん(78才)がわずか30分で発見し、歓喜
の母親の胸に幼子を返した。テレビの前の全国民がこの快
挙を称賛すると同時に、軽ワゴン車に食料や水、寝袋を積
み込み、助ける側から一切、力を借りないボランティアに、
「スーパーボランティア」、「カリスマボランティア」という新語
を使った。

ここ数年間、日本は地震、津波、局地的な豪雨、大雪、
噴火等甚大な自然災害に繰り返し襲われ、多く人命が失わ
れてきた。その被害状況や現場の地形をテレビ画面で見て
いると、全国どこにでも同じような所があり、誰も「対岸の火
事」とは決して思えない現実がある。そしてその災害現場で必ずとりあげられるのが、全国各地から集まってくる老若男
女のボランティアである。この災害現場とボランティア活動に励む人々の姿が新しい日本の風景になった。そこでボラン
ティア活動という見地から、500回に至るやまなしライフサポートの「炊き出し」の歩みを、過去の新聞記事を参考にしな
がら見てみたい。

2008年12月31日、山梨日日新聞、「路上生活者に炊き出し」。前日に甲府カトリック教会で行われた第一回目の炊
き出しの様子が記事になっている。同年4月に当教会に主任神父として赴任された、ミッシェル・ゴーチエ神父が中心とな
り、ボランティアの10人は信徒でつくる教会委員会のメンバーで構成されていた。甲府市内の公園や河川敷などの路上
生活者にチラシも配布し、「温かいものをどうぞ」と話しかけながら炊き出しを盛り上げた。

2009年12月28日、山梨日日新聞、「生活困窮者支援・市民の輪広がる」。これは27日に行われた第一回「年末交
流食事会」の様子を報じたものである。不景気風が吹き荒れる中、みんなで助け合い明るい年末年始に！「やまなしライ
フサポート」(ミッシェル・ゴーチエ代表)。当団体によって、2010年1月からの毎週木曜日に実施されることになった、
「炊き出し」のことが明るい話題として報道された。

同時に、NPO法人フードバンク山梨から参加者にお土産が配布されたこと、年末に行っている行政窓口の紹介、健康
相談、就労、住宅相談等のコーナーが設けられ、それぞれ専門の担当者が相談に応じた。労働組合員や医療関係者等、
10の民間団体と個人からなる80人のボランティアが集まった。ミッシェル代表の言葉として、「ボランティアはあくまでプ
ロではないが、放っておけない」、という心温まるコメントがあった。

2010年1月9日、山梨日日新聞、「顔」に「活動続ける大切さを説く」との見出しで、生活困窮者を支援する市民団体
「ライフサポートやまなし」の代表、ミッシェル・ゴーチエさんの顔写真が掲載された。先生の趣味が黒沢映画を楽しむこと、
そして好きな日本語の言葉として「おかげさま」を挙げていた。続けることの大切さと言えば、1回目から500回まで炊き
出しの記録を正確に残してくださった、甲府カトリック教会の信徒、木村正子様に「おかげさま」と、感謝したい。



2008年12月31日山梨日日新聞

特集 炊出し500回

炊き出し10年 心温め500回

リーマンショックによる不況の最中2008年12月に始まった炊出しは、2018年9月27日に500回の大きな節目を迎えました。

この間の利用者は延べ約20,000人。この炊出しを支えてくださったボランティアさんや利用者の声を紹介します。



2018年9月24日
山梨日日新聞

ボランティアさんより

2008年12月30日、教会の駐車場にブルーシートを張り北風の吹く寒い夕方に、第1回目の炊出しはスタートしました。集まったボランティアは18名、食事に見えた方は13名。メニューは温かいものにしようとカレーライス、みそ汁、野菜サラダ等でした。そして第2回目は年明け早々の1月3日、教会の方々の協力は大きく多額の寄付をしてくださった方もいました。日増しに近隣の方々も食材を届けてくれるようになりました。ある時は大型車にお湯を一杯詰め込んで足湯サービスをしてくださった施設の方も。なんとも心温まる光景でした。

以来ボランティアの輪も広がり、学生さん、地域のみなさん、修道院のシスター、外国籍の方々が何年も継続して奉仕してくださっています。

そして迎えた2018年9月27日、炊出し500回目の日です。この日は特別ごちそうメニュー。利用者さんとライフサポート理事長、スタッフの方々、そしてボランティア一同が共に食卓を囲み、音楽を聞きながら楽しいひと時を過ごしました。

この頃は利用者のみなさんともすっかり顔なじみになり、お互いに笑顔で話し合いながら元気を分かち合っています。この食事会の場が共に心地よい居場所となり、お互いを大切にし合える場になれますようにと願っています。

最近の新聞紙上で語られた村木厚子さん(元厚生労働事務次官)のことばが心に残っています。

「人は励まされるだけでは元気にならない。支え、支えられ、人はつながっていく。」(木村正子さん)

利用者さんの声

Aさん(56歳男性)

炊飯器がないのでふだんは殆ど自炊していません。スーパーの弁当中心なので、手作りで愛情のこもった家庭の味に感謝しています。お替りもたくさんできてうれしいです。

Bさん(67歳男性)

ここに来るのはみんなの顔を見るのが楽しみだからです。食事については最高で、おいしくいただいています。私の命はこの食事のおかげでつながっています。本当です。

Cさん(70代男性)

10年前の炊出しが始まったころは、庭のテントで食べていました。多い時は50人くらいいました。現在では来訪者の世話や、準備のボランティアをするようになりました。

Dさん(67歳男性)

ボランティアをしている知人に勧められてきました。煮物、みそ汁、果物、野菜と種類も多くバランスがとれて助かっています。独身なので、みんなでワイワイにぎやかに食べられるのがいいです。

Eさん(77歳男性)

知り合いに勧められてきましたが、友達や話し相手ができて良かったです。好き嫌いがないのでいつもおいしくいただいています。おかげで体重が増えました。歯が悪いので肉は苦手です。野菜が多いので助かっています。

Fさん(78歳男性)

東ほうかつ支援センターの紹介で来た時のカレーがおいしくてその後も来るようになりました。ここのおかずは、家ではできない味なのでついお替りをお腹いっぱい食べてしまいます。帰りにはおみやげももらい、童心に返ったようでとてもうれしいです。

500回記念行事

9月27日、炊出し500回目を機に、これまで炊出しを支えてくださった調理ボランティアさんや食材ご提供の個人・団体様をご招待し、日ごろの感謝を表す場として記念行事を開催しました。炊出し利用者さんにご招待者合計80名が参加されました。

中山理事長よりボランティアさんや協力者様にお礼の挨拶をし、記念品をお渡ししました。その後、利用者の皆さんと共に食卓を囲みスペシャルメニューのカツカレーを楽しみました。



ボランティアさんや協力者の方々にお礼の品を差し上げました。



この日のメニューは、利用者の皆さんの要望でカツカレーでした。



炊出し利用者と協力者が共に食事を楽しみました。



トゥーレモンド・エクスプレッションの演奏が会を盛り上げてくださいました。

炊出しにご協力いただいた皆さま（順不同）

調理ボランティアの皆さま

雨宮 さと子 様	シスター浦田 様
雨宮 絹枝 様	篠原 千里 様
池田 まゆみ 様	杉田 明子 様
今津 奈津江 様	田中 鷹智子 様
小澤 久子 様	富岡 貞子 様
小沢 なをみ 様	長野 翠 様
木村 正子 様	中山 幸子 様
草薙 礼子 様	宮澤 由美 様
後藤 允子 様	森川 茂子 様
後藤 照雄 様	山下 紀子 様
小林 廣美 様	山田 宣子 様
斉藤 勇 様	横山 かほる 様
坂本 辰子 様	
山梨英和大学 学生様	
山梨英和中学・高校 学生様	
山梨英和中学・高校 保護者会様	
山梨県立大学 学生様	

食材のご寄付やサービスご提供の皆さま

(個人)	清水 徳夫 様	小西 博 様
	小池 善治 様	清水 聖子 様
	金丸 久子 様	佐藤 三男 様
	雨宮 公男 様	丹沢 敬子 様
	深沢 和幸 様	篠原 千里 様
	菊島 和秀 様	山田 英美 様
	徳光 康平 様	原田 勇 様
	鬼塚 順 様	今井 洋子 様
	今福 秀明 様	堀口 明枝 様
	清水 量次 様	古屋 龍司 様
	吉田 和枝 様	深澤 峰子 様
	功刀 修 様	青柳郵便局長 様
(団体)	フードバンク山梨 様	塩の山ファーム 様
	ハヶ岳名水会 様	スペースふう 様
	天理教山梨教務支庁 様	あさひテレサホーム 様
	デイサービスだんらの家甲府大里 様	
	甲府食事サービスを進める会 様	
	韮崎カトリック白百合幼稚園 様	

炊出し以外の活動

やまなしライフサポートは路上生活者や生活困窮者支援のために次のような活動も行っています。

活動	内容
緊急一時宿泊所 ライフ荘の運営	笛吹市内にあり3室設けています。住まいを失った方に衣食住を無料で提供します(2週間限度)。 甲府市、笛吹市、山梨市、中央市、都留市より一時生活支援事業(*)を受託しています。
ふれあいサロンの 運営	気軽に利用できる相談コーナーを設けているほか、シャワーや洗濯機の提供、軽食のサービスも行っています。
健康相談	炊出し会場や訪問により、専任看護師が健康相談を行っています。定期的に面談することで問題の早期発見に役立っています。 甲府共立病院、石和共立病院、住吉病院等と連携し迅速な診察に結びつけています。
就労相談	キャリアコンサルタント資格保持者が就労相談を行っています。ハローワークや協力企業と連携し、一般就労のほか刑余者や障害者の就職活動も積極的に支援しています。
生活相談	専門相談員が相談を行っています。生活保護申請の支援や、債務整理のための法テラス利用支援、障害者手帳取得支援、年金受給資格確認のための年金事務所同行支援等も行っています。 行政から依頼を受けたひきこもりの方の定期訪問も行っています。
見守りパトロール	路上生活者の発見や安否確認のため、職員による週1~2回のパトロールのほか隔月でボランティアによるパトロールも行っています。

*一時生活支援事業:生活困窮者自立支援制度に基づき、住まいを失った人に一時的に衣食住を提供し自立を支援します。

ボランティアさん募集

当 NPO の活動に協力していただけるボランティアを募集しています。詳細につきましてはお気軽にお問合せください。

1. 炊出しボランティア

- ・毎週木曜日 午後 2 時～5 時(一部でも可) カトリック甲府教会(甲府市中央 2 丁目)にて
- ・調理、配食、片付け等のお手伝いをさせていただきます。
- ・マスク、エプロン、三角巾をご準備ください。

2. 見守りパトロール

- ・隔月第 4 日曜日 午後 2 時～4 時 30 分頃 カトリック甲府教会集合
(8 月、12 月は夜間パトロールとなります。詳細は別途お問い合わせください。)
- ・数グループに分かれ、甲府市と周辺部をパトロールし、路上生活者の発見や安否確認をします。

物品のご寄付を募っています

路上生活をされていた方がアパートでの生活を始めるにあたり、様々な生活用品が必要になります。多くのご寄付をいただいておりますが、現在右記の物品が特に必要です。ご連絡いただきましたら当方より受け取りに伺いますのでよろしく願いいたします。

小型冷蔵庫、洗濯機、電子レンジ
小型テレビ、電気炊飯器、コタツ、
電気ポット、自転車、カーテン、布団

会員募集中です

やまなしライフサポートの活動を資金面で支えてくださる方を募集しています。

正会員(当団体を支援し活動に参加してくださる方。総会での議決権有り)	年会費 個人 5,000 円 団体 10,000 円
賛助会員(当団体の活動を応援してくださる方)	年会費 個人 5,000 円 団体 10,000 円

入会申込書は、やまなしライフサポートのホームページ(<http://yls.or.jp/>)からダウンロードすることができます。